

志半ばにして天国に召された学生に捧ぐ

八 田 英 二

奨励者紹介〔はった・えいじ〕
学校法人同志社総長・理事長

わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもは過ぎ去ったからである。」

すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。

(ヨハネの黙示録 21 章1—5節)

ご紹介いただきました学校法人同志社総長・理事長の八田です。今日は「逝去者追悼礼拝」ということで、みなさまの前で少しお話をさせていただきたいと思います。

多分、ここにおられる方で1年生、2年生の方々には、入学式で、「志」という話を総長祝辞としてお話をさせていただいたと思います。「同志社」という3文字の中には「志」という言葉が入っております。今日は、志半ばにして天国に召された学生に捧げるということでお話をさせていただきたいと思います。

この「逝去者追悼礼拝」が開催されることになりましたのは、2005年4月 25 日朝9時 18 分頃、JR 福知山線で脱線事故が起こり、尼崎駅の手前で7両編成の列車がカーブを曲がりきれずにマンションに衝突したという事故がありました。みなさまにとっては、すでに歴史の一つになっているかも知れませんが、しかし、私にとって、これは現実の出来事として頭の中に深く刻まれております。私は2005年当時、同志社大学の学長でした。1998年～2013年3月まで 15 年間、同志社大学の学長をしておりまして、その間の最も悲しい出来事が、「JR福知山線脱線事故」でした。4月 28 日にも、ある事故が起こりました。磐越自動車道で近鉄バスの運転手が運転を誤り、3名の乗客が亡くなりました。そのうちの一人が故郷仙台に帰る途中の経済学部1年生の学生で、彼は4月 28 日に亡くなりました。4月 25 日のJR福知山線脱線事故で3名、そして 28 日のバス事故で1名、合わせて4名の学生が亡くなりました。私はその時の学長でした。

4月 25 日は月曜日で午後から大学の会議があり、午前中に打ち合わせ会をしていた時、テレビで「JR福知山線で大きな事故があったらしい」と緊急速報が流れました。しばらく経つと学生部の職員の方から「同志社の学生が巻き込まれたらしい」と連絡がありました。情報を集めると今の社会学部メディア学科、当時は文学部社会学科新聞学専攻の1年生の女子学生。もう一人は1年生で文学部英文学科の女子学生。そして3人目が法学部2年生の女子学生、この3名の学生が亡くなられたという連絡が入り

ました。その日の晩、今出川校地の学長室で、徹夜で情報収集をしました。この3名の女子学生の方々、すべてのお通夜、告別式に参列させていただきました。そのうちの一人の学生のお母さまが「八田学長、うちの娘は関西大学の付属高校に通っていた。どうしても同志社で勉強したいというから同志社に進学したが、あのまま関西大学へ推薦で進学してくれていたなら、こんなことにはならなかったのに」と泣いておられたのを今でも思い出します。その3日後、経済学部の学生を亡くすという悲しい出来事が、私が学長になって7年目の4月にありました。次の年からは、この4名の方々の追悼ということで、このような礼拝をもつことになりました。昨年も何名かの現役の学生の方々が天国に召されました。教職員の方が1名、亡くられるという悲しい出来事がありました。この方々の御霊の平安を今からお祈りさせていただきます。

すべての同志社の教職員、学生が大きな「志」をもって、教育にあたり、あるいは授業を受けておられると考えております。先述の亡くなられた学生の皆さんも、すべて大きな「志」をもって同志社に入ってこられた。彼らが今、存命中なら35歳、36歳で、社会で活躍しておられる、社会を動かしておられる、そういう方々を不幸な事故で亡くしてしまいました。まだこれは歴史にはならない、風化させてはいけない現実の出来事だと考えております。

先程の3名の方々が、なぜ京田辺校地に来ていたのかと思われるかも知れませんが、1、2年生の文系の学生が今出川キャンパスに統合されたのは2013年からです。それまでは1、2年生の文系の学生はすべて京田辺校地に通って来ておりました。学長としての最後の時、2011、12年、文系の学生の1、2年生すべてを今出川校地に帰そうと今出川キャンパスに良心館という大きな建物を建てて、京田辺校地は現在では6学部、今出川校地で8学部が二つのキャンパスに分かれることになりました。2013年まではすべての同志社の学生の1、2年生は京田辺校地で勉強していました。JR福知山線脱線事故で亡くなった学生も3名、京田辺校地に通っていました。しかもJR京田辺駅で7両編成の列車のうち、後の3両が切り離される。前4両だけが同志社前駅に来る。同志社前駅に着くと前から回って反対側のホームに行き改札口を出る。同志社の学生は、なるべく早く駅から構内を通って出口に出たいということで前の車両に乗っていた。そのため1、2両目には同志社の学生が多かったということがありました。

「JR福知山線脱線事故」では同志社の学生3名が亡くなられましたが、重傷者が33名おられました。33名の方々が、それから3年後、4年後に卒業されました。卒業式には両足切断で車椅子の学生もおられましたが、私から卒業証書をお渡しすることができたことは、みなさまにとっては、もう歴史になっているかも知れません。

「志」というもの、「夢」というもの、「夢」と「志」は、どこが違うのか。多分、みなさんは大きな「夢」をもっておられると思います。将来、会社員になりたい、公務員になりたい、あるいは幼稚園の先生になりたい、学校の先生になりたい、これは「夢」といえるかも知れません。では「夢」と「志」はどこが違うのか、「志」は「夢」の向こうに、その「夢」が実現した後に自分の生活をどのようにしていくのか、社会をどのように変えていくのか、どのような自分の人生を送るのか、「夢」の向こうを考えるのが「志」だと思います。「夢」を実現した後、どのように社会を変えていこうか、それが「志」だと考えております。みなさんも、「夢」をもつと同時に、その「夢」を実現した後、どのように社会を変えていくか、それを自分の生活にどのように生かしていくのか、人類の幸福のためにどのようにしていくのか、ぜひとも同志社の学生である限りは「志」をもっていただきたいと思います。そして「社会をどのように変えていくのか、人類の幸福のため

に何ができるのか」を、ぜひとも若いうちに「志」を確立していただきたいというのが、私の今日のメッセージです。

その「夢」を実現して「志」を果たすことができなかった4名の若き同志社の、天国に召された学生のことを、これから生きていかれるみなさん方に、「志」の確立を、ぜひともお願いをしたい。これが私の、4名の亡くなられた方々を思うにつけ、残された若い方々に語りかけるメッセージだと、それが同志社総長・理事長としての、同志社の学生に対するメッセージだと考えております。みなさん、自分の死とかは、まだ考えておられないと思います。ただ、自分はどのように生きるべきなのか、生きることによって、どのように社会を変えることができるのか、人類の幸福のために何ができるのかを、今から、ぜひ考えていただきたい。そして「志」を大事にする同志社で学んだという、この学びの重要性を今、もう一度、認識していただければ幸いです。

最後になりましたが、4名の方々は、多分、みなさんのことを同志社大学の学生の後輩として見守ってくれていると思います。ぜひとも「志」を、この同志社大学におられる間に確立をしていただきたい。夢の向こう側で何ができるのか、ぜひとも考えていただければ幸いです。ありがとうございました。

2022年4月 20日 京田辺水曜ランチタイム・チャペル・アワー「逝去者追悼礼拝奨励」記録